

## プロロジス、宮城県岩沼市において 「プロロジスパーク岩沼 1」の再開発に着手



「プロロジスパーク岩沼 1」完成予想パース

物流不動産の所有・運営・開発のリーディング・グローバル・企業であるプロロジス（日本本社：東京都千代田区丸の内、代表取締役社長：山田 御酒）は、プロロジスがスポンサーを務める「日本プロロジスリート投資法人」が、その保有物件の「プロロジスパーク岩沼 1」の再開発に着手することを発表しました。

「プロロジスパーク岩沼 1」は、マルチテナント型物流施設として宮城県岩沼市に開発され 2008 年 10 月に竣工しましたが、約 11 年半にわたる運営の後、2020 年 4 月に発生した火災により焼失しました。同施設を保有する日本プロロジスリート投資法人は、同年 7 月にその解体撤去工事を開始し、2021 年 2 月頃の工事完了を予定しています。工事完了後の同敷地に新たな「プロロジスパーク岩沼 1」の再開発を予定しており、入居企業の募集を開始します。

### ■ 「プロロジスパーク岩沼 1」施設概要

再開発する「プロロジスパーク岩沼 1」は、約 45,700 m<sup>2</sup>の敷地に、地上 2 階建、延床面積約 50,400 m<sup>2</sup>のマルチテナント型物流施設として計画しており、焼失した施設（地上 2 階建て、延床面積約 43,800 m<sup>2</sup>）以上に機能を拡充して、搬出入のスピードや物流作業の効率向上に重点を置いた計画としています。焼失した施設には設置されていなかったスロープを新たに設け、大型車両の上階へのアクセスを可能とし、東北エリアとしては希少性のある効率的な 1 フロアオペレーションを可能とするとともに、複層階オペレーションも実現できるよう貨物用 EV や垂直搬送機を将来対応可能とする計画です。また、トラックバスや荷捌きスペースを十分に確保し、円滑な物流オペレーションを行える設計とします。

入居企業は最大 6 社（6 区画）を想定し、最小区画は約 1,500 坪から賃貸可能とします。広い敷地内には、建物外周に大型車両が走行可能な車路を整備するほか、トラックの待機スペースも十分に確保する計画です。また、施設従業員のための乗用車用駐車場も十分に確保し、利便性の高い職場環境を整える予定です。

（次頁へ続く）

また、近年増加傾向にある水害を想定した地面のレベル設定を計画し、人命および入居企業の使用する設備、荷物の保護を図ります。

## ■ 開発地

「プロロジスパーク岩沼 1」の再開発地は、仙台空港から至近の「岩沼臨空工業団地」内に立地しています。「岩沼臨空工業団地」は仙台空港および仙台空港駅から約 2km、仙台市中心部から約 15km、仙台港から約 18km に位置しているのに加え、仙台東部道路 仙台空港 IC から車で数分と、陸・海・空のアクセスに大変優れています。そのため宮城県内はもちろん、東北地方全体への戦略的物流拠点としての利用が見込まれています。

また、岩沼市は、県、国と連携し、防潮堤、河川防堤、かさ上げ道路、防災公園の整備など多重防御による津波対策を行っており、東日本大震災と同程度の津波が起きても市内の安全を確保できることがシミュレーションによって確認されています。

## 「プロロジスパーク岩沼 1」計画概要

名 称	プロロジスパーク岩沼 1
開 発 地	宮城県岩沼市空港南 3 丁目 2-35
敷地面積	45,704 m <sup>2</sup> (13,825 坪)
延床面積	50,446 m <sup>2</sup> (15,259 坪)
構 造	地上 2 階建 鉄骨造
着工予定	2021 年 3 月
竣工予定	2022 年 4 月

## ■ 東北地方のプロロジスパーク

東北地方において、プロロジスはこれまでに 9 棟の物流施設を開発してきました。現在は、宮城県内において株式会社キューソー流通システムの専用(BTS 型)物流施設「プロロジスパーク仙台泉」、ヤマト運輸株式会社の専用(BTS 型)物流施設「プロロジスパーク仙台泉 2」を運営中です。

本プレスリリースに関するお問い合わせ先  
プロロジス 広報室

報道関係者お問い合わせフォーム  
[https://f.msgs.jp/webapp/form/11859\\_dor\\_73/index.do](https://f.msgs.jp/webapp/form/11859_dor_73/index.do)